

2019年6月期 第2四半期 決算説明会



証券コード1382

株式会社 ホーブ

2019年2月21日



会社概要

■ 会社名	株式会社ホーブ
■ 代表取締役社長	政場 秀
■ 設立	1987年6月
■ 本社所在地	北海道上川郡東神楽町
■ 資本金	4億2125万円
■ 発行済株式総数	762,000株
■ 従業員数	43人（連結）29人（個別）
■ 事業所	北海道本社／東京本部
■ 連結子会社	株式会社エス・ロジスティックス



事業内容

事業区分（セグメント）および事業内容

事業区分	事業内容
いちご果実・青果事業 (当社)	いちご果実（自社品種・その他いちご）、青果、農業用資材等の仕入販売
種苗事業 (当社)	自社いちご品種、その他種苗の生産と販売
馬鈴薯事業 (当社)	種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売 青果馬鈴薯の仕入販売等
運送事業 (株式会社エス・ロジスティックス)	運送業務

業績の概要



連結業績

(単位：百万円)

	2019.6期 第2四半期	2018.6期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	1,806	2,257	△451	△20.0
売上総利益	360	349	10	3.0
営業利益	26	△14	40	—
経常利益	28	△12	40	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	27	△15	42	—



セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2019.6期 第2四半期		2018.6期 第2四半期	増減率 (%)
		構成比 (%)		
いちご果実・青果事業	1,648	91.3	2,002	△17.7
種苗事業	6	0.4	6	△0.4
馬鈴薯事業	105	5.8	206	△48.9
運送事業	45	2.5	41	11.1
連結	1,806	100.0	2,257	△20.0



セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	2019.6期 第2四半期	2018.6期 第2四半期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	116	69	69.1
種苗事業	1	△1	—
馬鈴薯事業	△7	1	—
運送事業	0.4	2	△79.0
調整額※	△84	△86	—
連結	26	△14	—

※調整額は主にどの部門にも帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

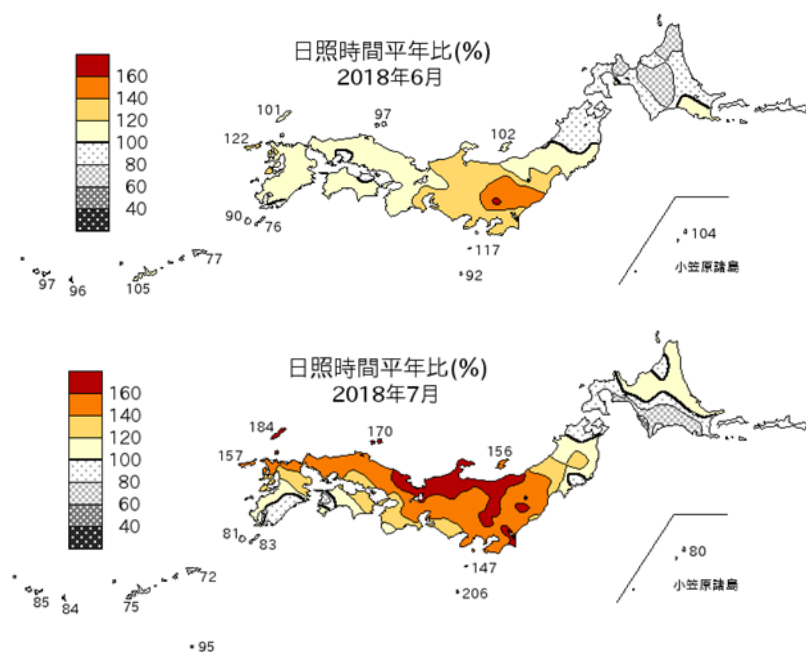
セグメント別の状況



いちご果実・青果事業—自社品種の出荷状況—

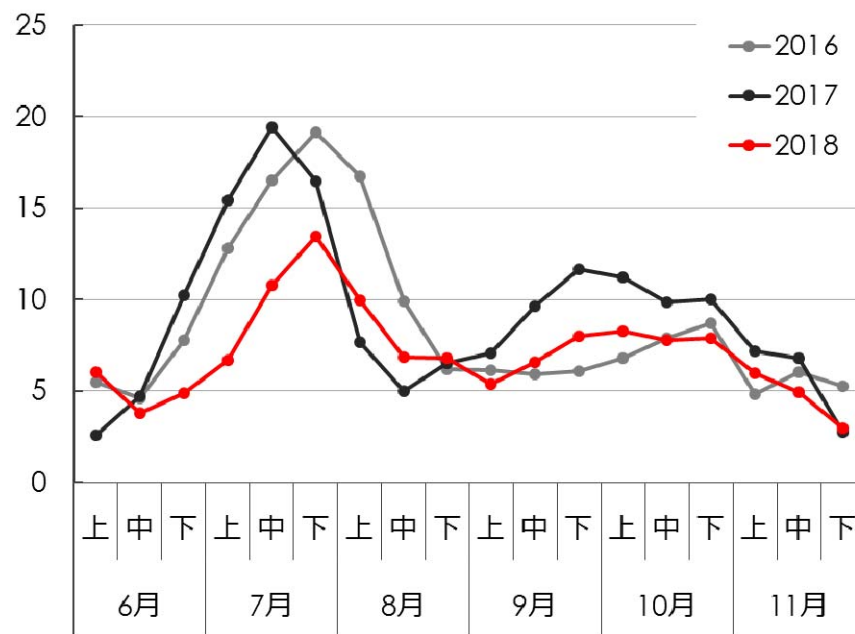
- 特に北海道地方において、6月中旬～7月中旬にかけて低温、低日照の日が続く。
- 6月中旬～7月中旬にかけての極端な日照不足の影響で、株の生育が停滞。
秋以降の出荷量減少の要因となる。

2018年6,7月の日照時間平年差



(トン)

自社品種出荷量推移

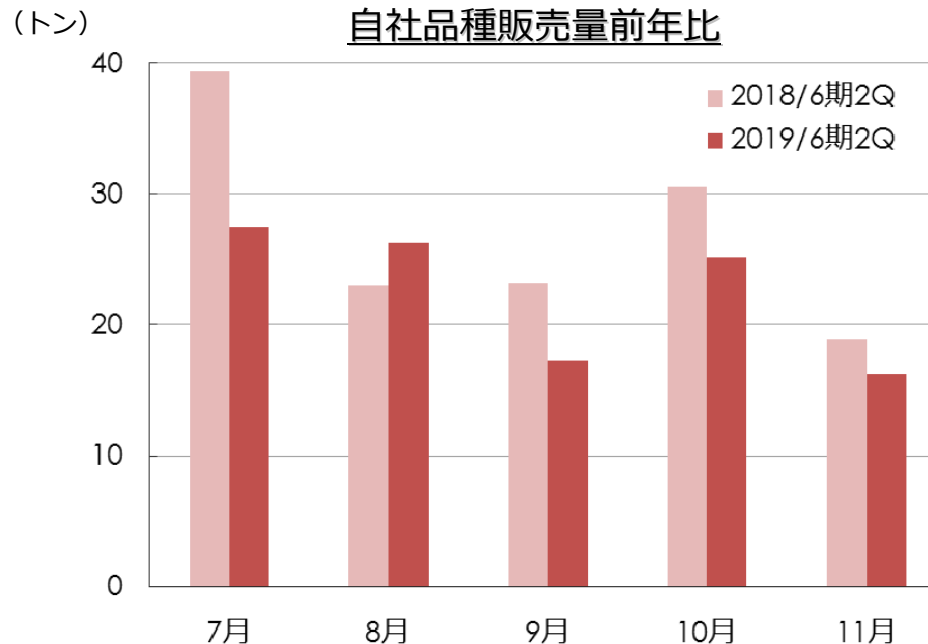


※気象庁ホームページより



いちご果実・青果事業—自社品種の販売状況—

- 新品種「夏瑞／なつみずき」の生食向け、業務用の販売が堅調に推移。
(販売数量は前シーズン対比で約25%増加)
 - 百貨店や量販店での生食向け取扱い店舗数が増加。
 - 既存、新規取引先に対する「夏瑞／なつみずき」を使用したスイーツの提案、タルトやパンケーキ、大福といった業務用としての取扱量の増加。
- 9月以降、出荷数量の回復が遅れ、販売数量は前年を下回ったものの、夏秋期を通して極端な出荷の増減がなく、利益については改善。

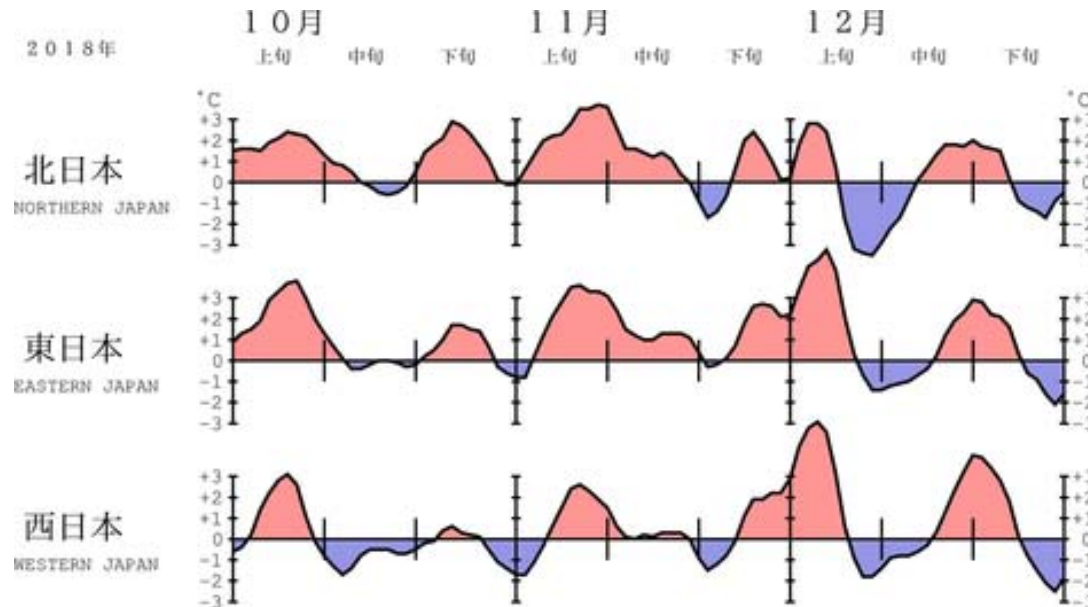




いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況①—

- 促成いちご（とちおとめ・さがほのかなど）の定植後の生育は、気象条件に恵まれ順調に推移。
11月～12月初めまでの生育は前進傾向。
- クリスマス直前の12月中旬から一転して一時的に寒波が入る。

2018年10～12月 地域別平年気温平年差



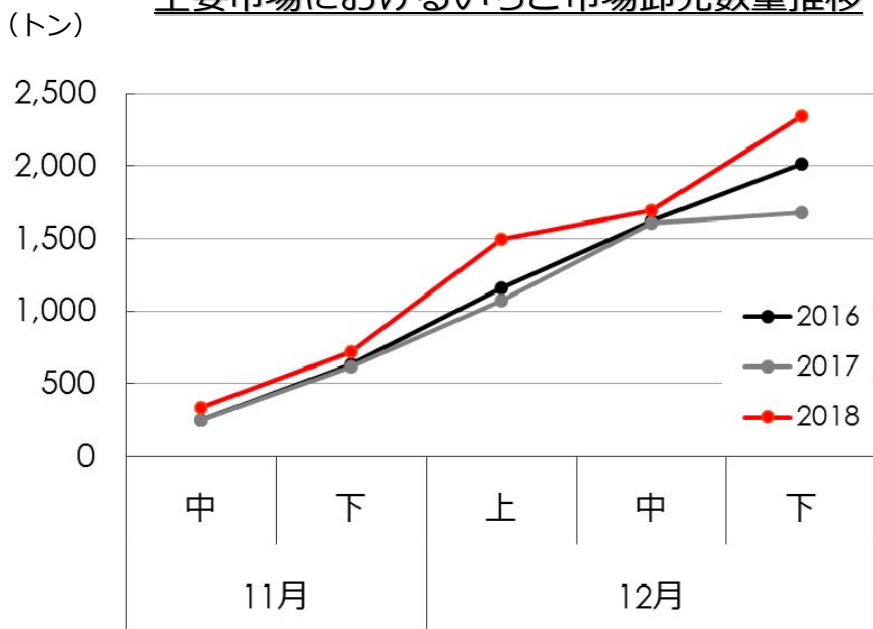
※気象庁ホームページより



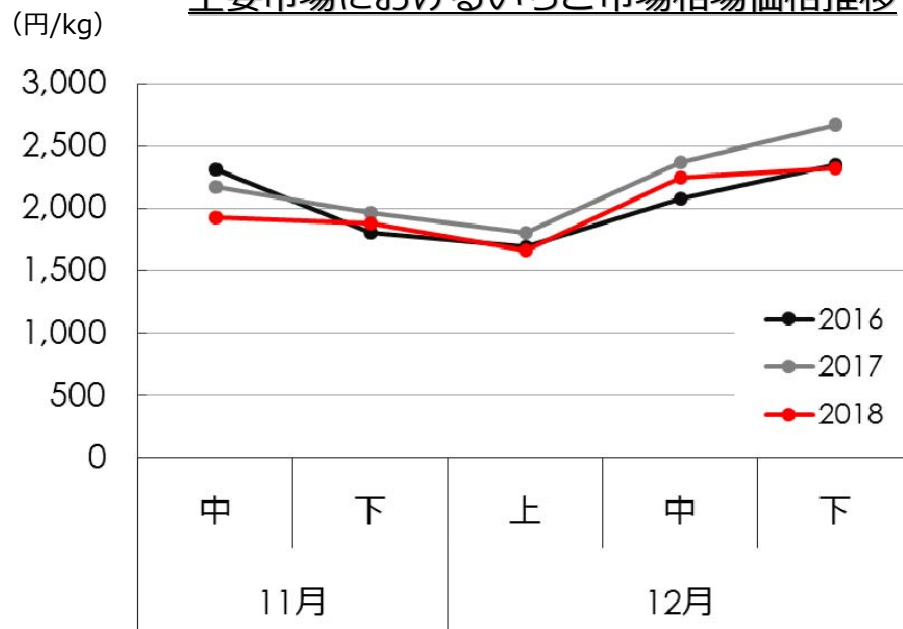
いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況②—

- 市場へのいちご果実入荷量は、クリスマス直前の寒波の影響もあり一時停滞。
- いちご市場相場価格は前年ほどではないものの、高値で推移。

主要市場におけるいちご市場卸売数量推移



主要市場におけるいちご市場相場価格推移

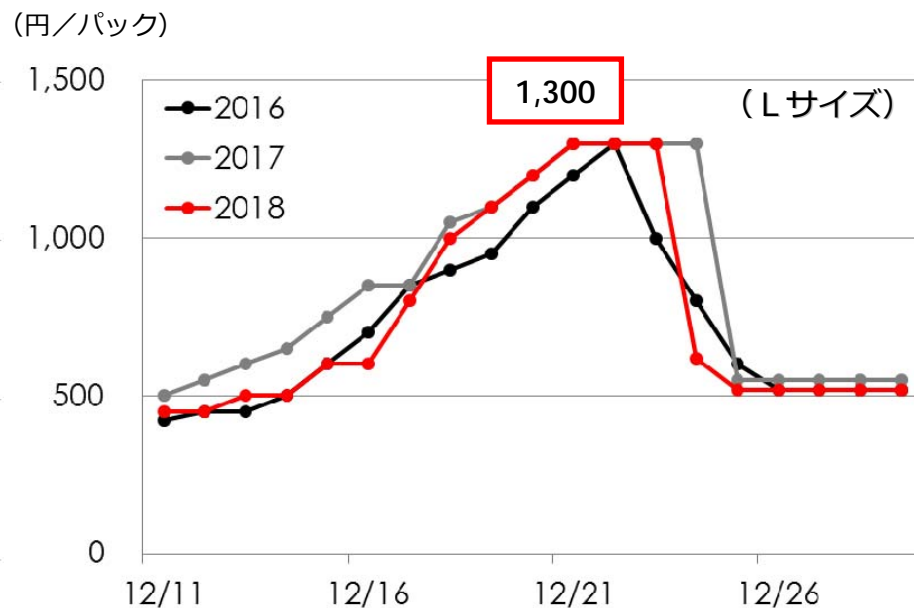
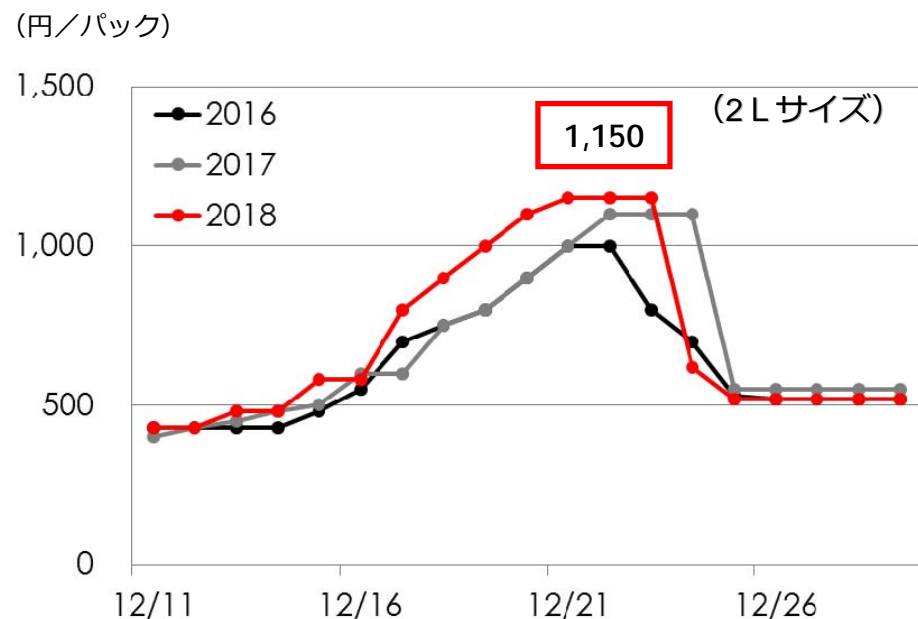




いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況③—

- 関西事業所の閉鎖と既存取引先からの受注数量減少により、販売数量が減少。
- クリスマス期の市場相場価格の高騰により、固定価格での販売先に対する利益が減少。

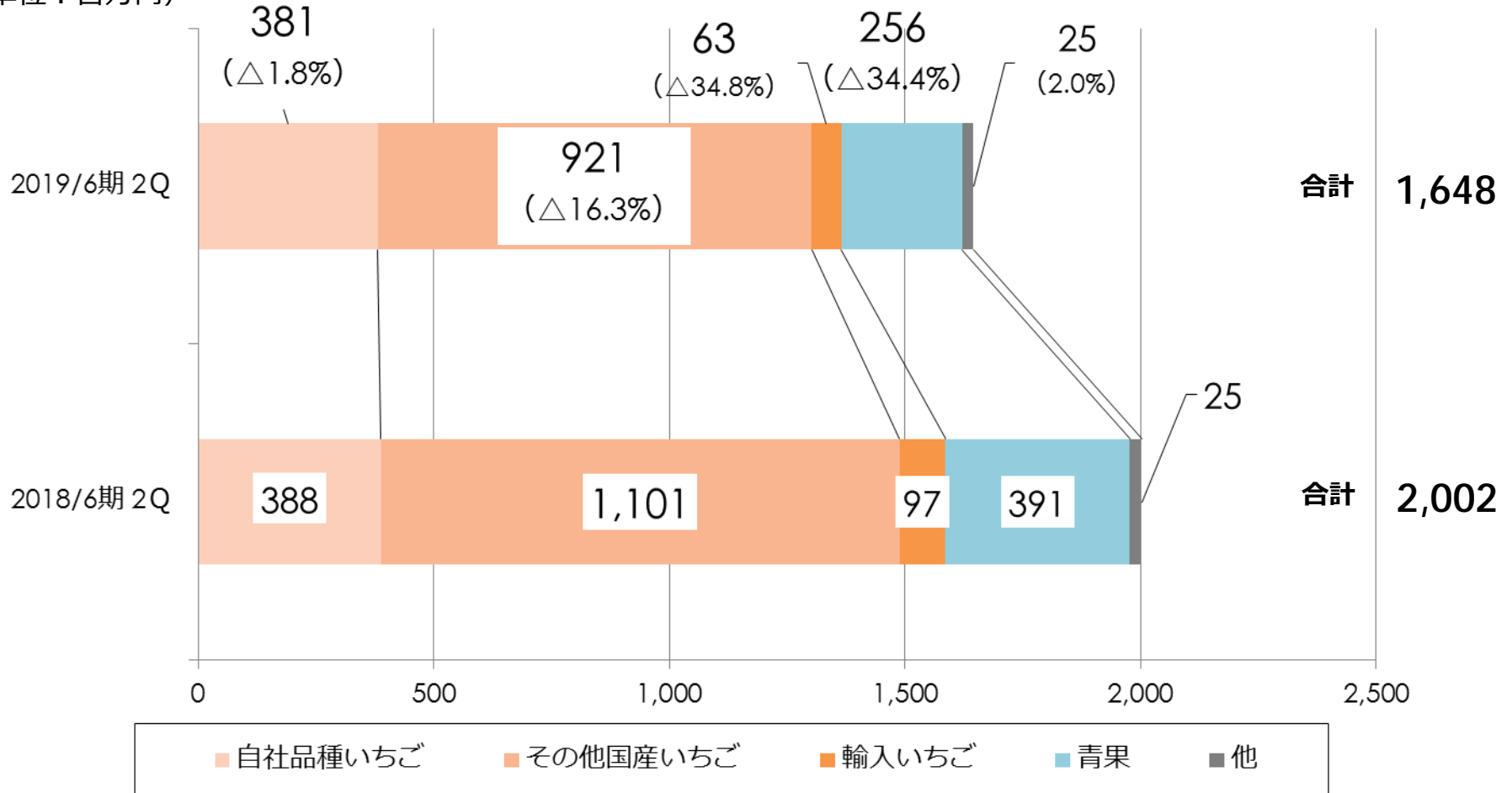
大田市場におけるいちご市場相場価格推移（業務用サイズ）





いちご果実・青果事業—品目別売上高—

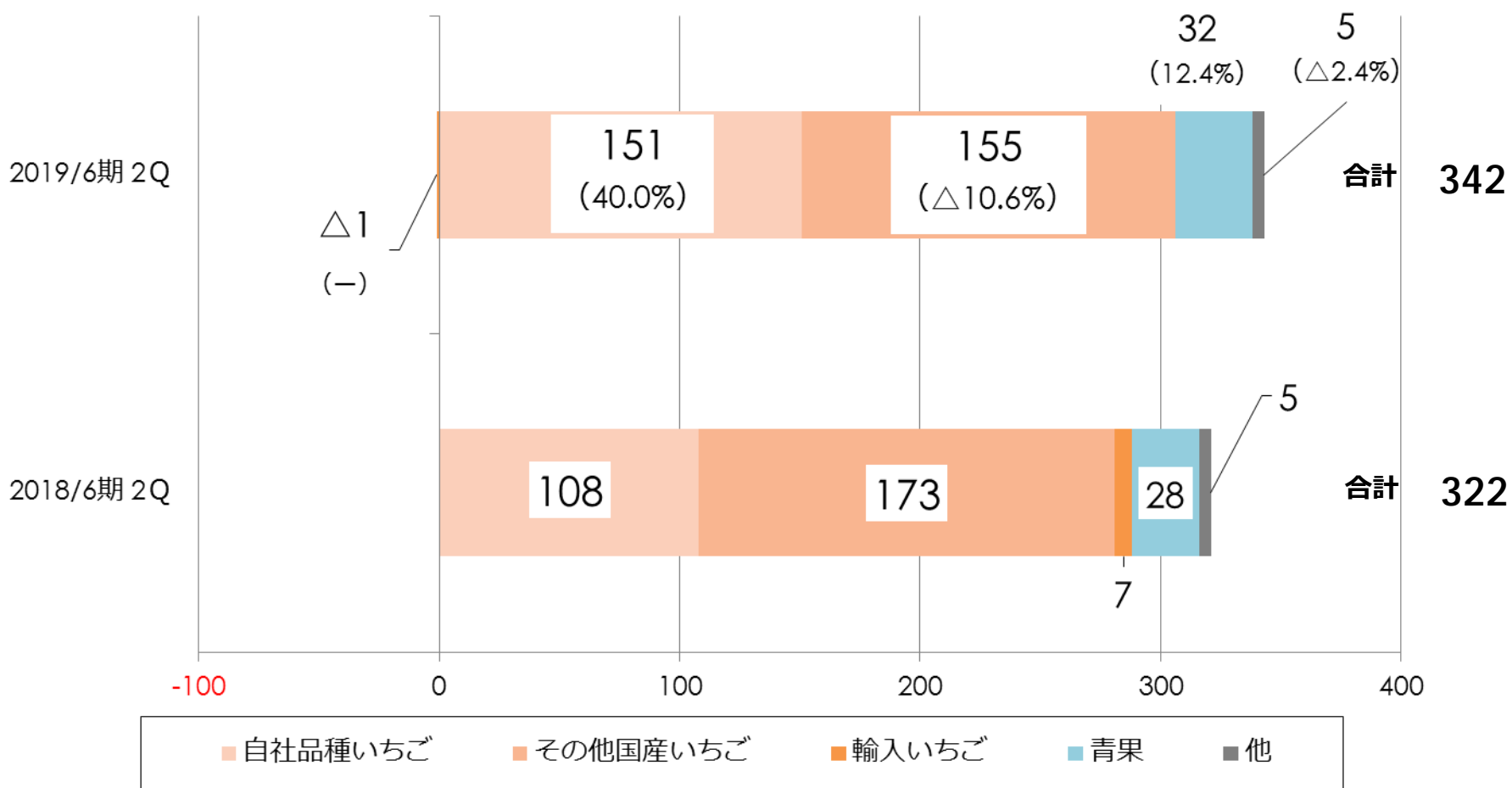
(単位：百万円)





いちご果実・青果事業一品目別総利益一

(単位：百万円)





馬鈴薯事業

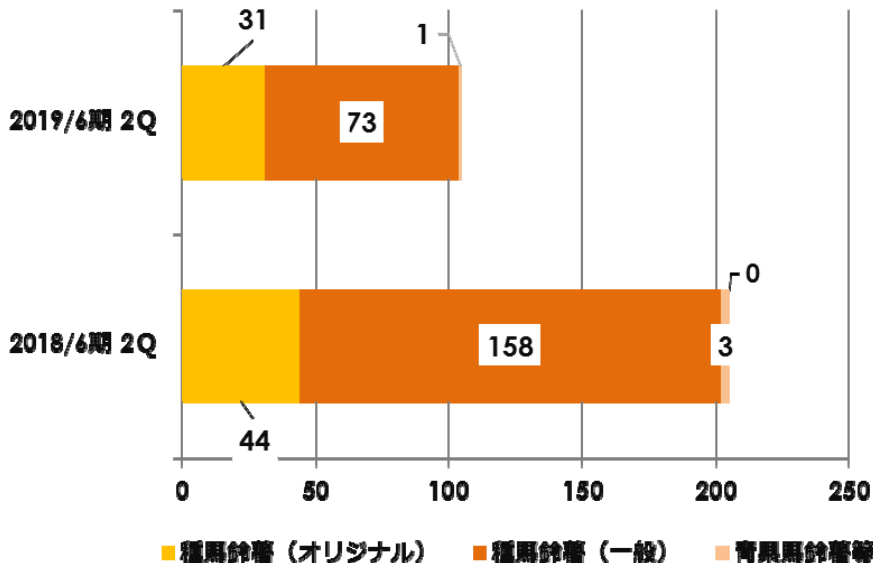
- 種馬鈴薯は秋作向けの産地の作況が悪く供給が不足。
春作向けについては青果馬鈴薯の市場価格低迷を受け、産地栽培面積が縮小傾向。
- 青果馬鈴薯は市場価格の低迷により販売を控える。



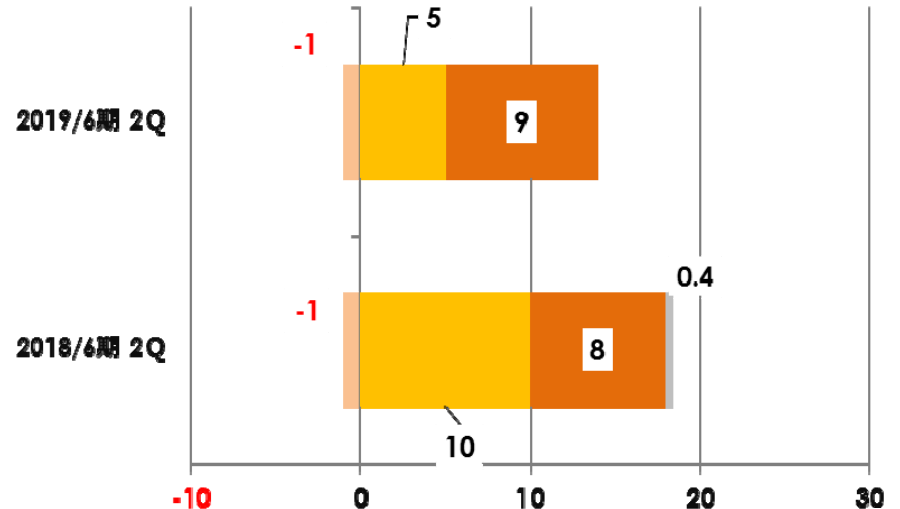
売上高、利益ともに前年同期を下回る結果となる。

(単位：百万円)

2Q馬鈴薯事業の売上高比較



2Q馬鈴薯事業の総利益比較



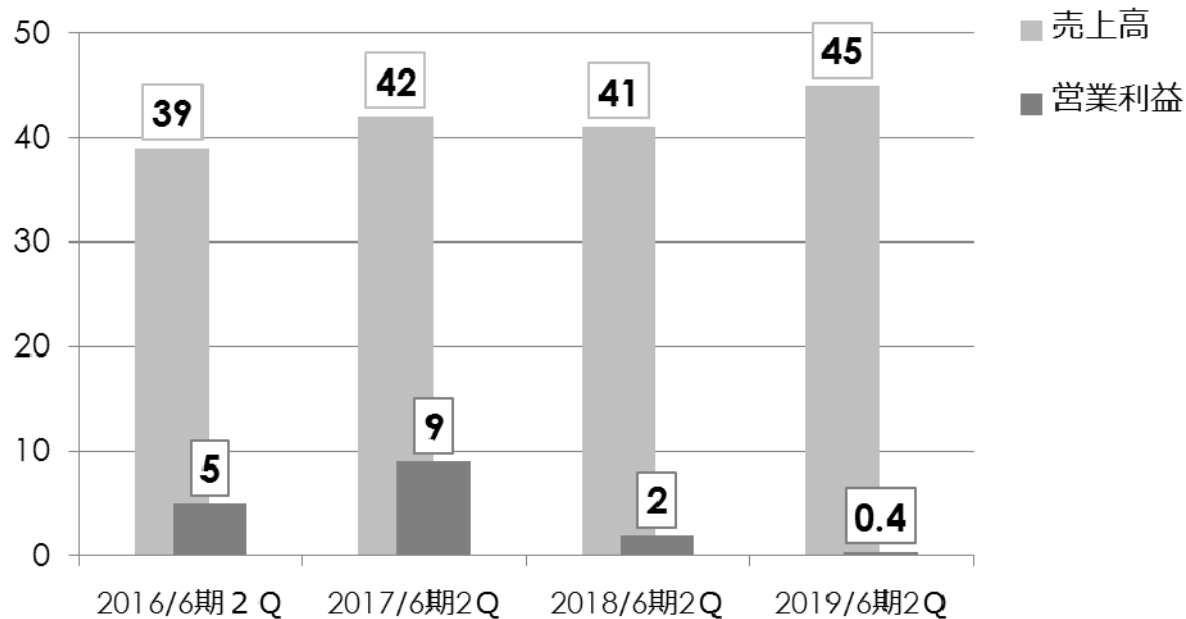


運送事業

- 一般荷主からの受託が増加したことにより売上高は増加したものの、人員不足による外注配送の増加などにより、売上高に応じた利益を確保できず。

(単位：百万円)

運送事業の売上高・営業利益の推移



※株式会社エス・ロジスティックスは平成25年12月19日付で、国土交通省指定の全国貨物自動車運送適正化事業実施機関より「安全性優良事業所(Gマーク)」の認定を受けております。



2019年6月期

連結業績通期の見通し

連結業績通期予想

(単位：百万円)

	2019.6期 通期予想	2018.6期 通期実績	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高	3,477	3,870	△392	△10.2
営業利益	13	△63	77	—
経常利益	16	△59	75	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	12	△64	76	—

* 上半期の連結業績と下半期の業績見込みを勘案し、当初の通期連結業績予想から予想数値の修正を行っております。



今後の対応

いちご果実・ 青果事業

- ・新品種「ペチカほのか」（商品名 夏瑞／なつみずき）の生食用および業務用の販売展開。
- ・促成いちごの販売時期（主に12～5月）における適正な数量の仕入、品質向上に向けた仕入体制強化を継続。
- ・新品種「ペチカエバー」（商品名 コア）の収量性の高さを活かし、促成いちごの端境期、いちごの品薄となる時期の出荷量確保。
- ・業務の効率化を図り、配送コストなど販売管理費の抑制を継続。

種苗事業

- ・食味の良い新品種「ペチカほのか」の特長を活かし、生食用を主体とした産地の展開。
- ・収量性の高い「ペチカエバー」を業務用の生産を主体とする産地に展開。

馬鈴薯事業

- ・海外オリジナル品種の種馬鈴薯の販売強化。
- ・適正な数量の仕入管理を行うことで、収益を確保。

運送事業

- ・配送業務のさらなる効率的な運用と、新規荷主獲得に向けた営業強化。



本日はご多忙中のところ
誠にありがとうございました